

梅窓院通信

青山

住職挨拶

梅窓院第二十五世 中島真成

今年も早いものではや半分が過ぎ去るうとしています。皆様におかれましてはお変わりなくお過ごしでしょうか。世界的に天候不順が続いています。どうぞくれぐれもご自愛をお忘れなくお過ごし下さい。

さて、表紙の写真ですが、奥に東京タワーと増上寺大殿、そして手前の緑色の庭儀台を背景にお練り中の私が写っています。この写真は御忌法要といって、浄土宗の開祖である法然上人への報恩謝徳を表す増上寺で一番大きな法要でのワンカットです。今年梅窓院の近く、表参道にある善光寺の 住職がこの日の法要の導師、唱導師を務められましたので、随喜させていただきました。

前日も埼玉の川越にある蓮馨寺、住職が唱導師を務められ、ご案内を頂きましたので、二日続けて随喜させて頂きました。ちなみにこの御忌、この増上寺を初めに京都の総大本山でも行われる浄土宗にとって大切な行事のひとつです。

また、来年は弟子である長野の寛慶寺、住職がこの唱導師を務められ、お声掛けもあり、私が脇導師としてお伴させていただくことになりました。梅窓院で団体参拝を組みますので、少々気が早いですが、多くの方のご参拝をお願いする次第です。

さて、昨年お知らせ致しました客殿建物の十四階を新しい客殿としてご利用いただいています。六本木ヒルズや東京タワーを望める部屋です。ようやく調度品もすべて揃い、本格利用の運びとなりましたので、是非ご利用下さい。

話は戻りますが、御忌の少し前に、梅窓院の墓地中央の桜が見事に咲きました。一本だけ残した桜ですが、皆様の目を楽しませてくれたことと思います。



盆提灯と盆灯籠

新宿区 香蓮寺住職

勝崎裕彦

お

盆行事は、日本人の心を反映してゆかしく伝え込まれてきた。日本人の心象風景が、お盆に由来するさまざまなきたりや事柄にしっかりと包み込まれて、尊く行ない習わされてきたのである。

そうした日本人のうるわしい心模様を照らし出すのが、盆提灯と盆灯籠である。盆提灯と盆灯籠をめぐって、思いと願いを込めて一文を綴りたい。まず盆提灯と盆灯籠の文字について――。旧字・正字の燈を使用すれば、盆提燈と盆燈籠と書くことになるが、古くからの句や歳時記の古い版のものなどを見て、昭和戦後世代の私なども覚え正字で書いてしまふことである。実は灯という字が、常用漢字表で改められた文字であり、もちろん中国でも元・明以来、燈の代用とされてきたが、私自身、ちよっとしたアレルギーがあるわけである。

また提灯の読み方は、漢音で読めば「ていとう」である。提は呉音でダイ、漢音でテイ。燈は呉音・漢音でドウ。灯は呉音でトウ・チヨウ、漢音でトウ・テイ、唐宋音でテン。つまり「ちようちん」の読み方は、吊灯の唐宋音の読み方と混同して、今に伝えられているのである。

さて盆提灯も盆灯籠も、お盆行事に

まつわる季語であるから初秋の季題であり、歳時記では「人事・生活」の欄に記載されている。項目立てとしては大きく「灯籠」でひと括りされて、普通は盆灯籠・盆提灯の順序で記し出され、以下、高灯籠・揚灯籠・切子灯籠（切子・切籠）・折掛灯籠（折掛）・花灯籠・絵灯籠・軒灯籠・墓灯籠・舟灯籠・柳灯籠・吊り灯籠・吊り提灯などと並べられている。さらに灯籠店・灯籠見物などの関連の季語が加えられている。

つまり灯籠といえば盆灯籠のことを言い表し、お盆行事にかかわる大切な季語として、庶民生活の中に親しく言い習わされてきたのである。灯籠の文字は、灯炉（燈爐）・灯楼（燈樓）などとも書いた。また盆提灯の謂は、近代以降、都市部において広く用いられるようになったともいふ。

季語欄をさらに見ると、吉原の灯籠・島原の灯籠や内裏御灯籠なども記されている。そして、福島の人形・肥後熊本の出鹿灯籠・岐阜提灯なども季語として掲げられている。また灯籠売りは、江戸時代には売り商いの風物詩の一つとして、盆支度・盆用意の頃合には欠かせないものであった。祖母在ますごと灯籠を吊りにけり

(重浪)

私の好きな句の一つである。白田重浪は大須賀乙字の影響を受けながら、季語を持つ十七音の句、つまり有季定型を尊重しながら、自由な新傾向の俳句を目指した人である。右の句はその重浪の志向がよく示されている句でもある。

初恋や灯籠に寄する顔と顔 (太祇)

炭太祇のこの句も、私の好きな句である。

ところで回り灯籠は、走馬灯や影灯籠・舞灯籠とともに、現今では夏の季語欄に加えられる。軒に吊ったり、縁側に置いたりという風情も、今日の住宅事情を考えれば、すでに過去の思い出の中のことであるかもしれないが、夏の夜の涼味を誘う楽しみとして、お盆に限ったことでなく、かつては生活の中に生きていたのである。なお古い歳時記では、陰暦七月の初秋の頃に置いてあるものもある。

「思い出が走馬灯のように浮かんでくる」などという。お盆にまつわる思い出は、自分自身の心のふるさと、いのちのふるさとにつながるなつかしいものである。日常の慌しさの中で、ふと走馬灯のように思い出してみると、なつかしいかぎり、したわしいかぎり、机辺にあっても温かい涙に誘われることしきりである。

(大正大学学長)

三月・四月の

行事報告

平成27年春彼岸法要

3月21日(土)



法要



寄席

増上寺詠唱大会

4月3日(金)



詠唱大会



今年も21・22日と郡上八幡物産展を開催致しました。



尼僧によって動物慰霊法要が執り行われました。

はなまつり

4月4日(土)~8日(水)



はなまつり

お盆 七月十三日(月)

孟蘭盆会法要 — 午前十時半 — 地下二階 祖師堂

御棚経 七月十三日〜十六日

※新盆でご希望する方のみ

なお、棚経については同封の別紙「お盆について」をご覧ください。また、不明な点がありましたら梅窓院法務部へお問い合わせ下さい。

お盆に寄せて

日本でのお盆の歴史は古く、『日本書紀』によると、推古天皇時代(六〇六年)に日本ではじめてお盆の行事が行われたと伝えられています。

お盆は正確には孟蘭盆会(うらぼんえ)といえます。孟蘭盆は、サンスクリット語の「ウランバナ」に由来しています。「逆さまに吊るされるような苦しみ」と言う意味で、お釈迦様の弟子の一人、目連様のお母様が餓鬼の世界に落ちて苦しみあえていたのを救う話に由来しているそうです。

目連様にとつてはとても優しいお母様でしたが、自分の子以外の人には施すことがなかったので餓鬼の世界に落ちてしまったのです。そこでお釈迦様は目連様に、多くの人にお布施をすることでお

母様を救うように言いました。無縁の人を助けることが一番の功德だからです。目連様はお母様の代わりによく多くの人にお布施をするようにおっしゃったのですね。

そのことからお盆は父母や先祖様に報恩感謝をささげ、功德をつむ重要な日となりました。梅窓院では毎年お盆の法要を行います。皆様のご先祖様を供養して、皆様の私、そんな当たり前のことに気づかされる法要です。

さて、ここではお盆に関係のある二つの話をご紹介しますいただきます。

まずは盆踊り。お盆の行事としてとても馴染みが深いですね。

盆踊りは室町時代の初め、お盆に帰ってきた先祖の霊を慰めるために始まりました。今では地域の人との交流の場や、帰省した時

の再会の場にもなり、人と人との結びつきを強くするものでもあるようですが、本来はそのような目的があったのですね。

そしてもう一つ、お盆玉と言う風習がある事をご存知ですか。お盆玉とは夏に渡すお小遣いのことで、江戸時代に東北地域にあった習慣だそうです。当初は、衣服や下駄を渡していたそうですが、昭和初期頃に子どもにお小遣いをおくる習慣に変わっていったそうです。とても楽しそうな習慣ですね。

お盆にはご親戚の皆様、そしてご先祖様でお集まりになり、故人様の思い出を語りあい、お寺へ行ってお墓参りをして、ご先祖様を心からご供養いたしませんか。

盆嬉し 別れし人も 帰り来る

(法務部)

回料のお申し込み方法とお知らせ

◆孟蘭盆会 回料お申し込み方法

回料紙 御回料料 …… 1枚 / 3000円

・同封の回料紙にご記入の上、7月13日(月)までに受付へお持ち下さい。

・一枚につき、一霊の御回料とさせていただきます。

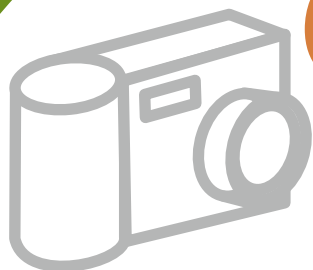
御塔婆 御回料料 …… 1本 / 7000円

・御塔婆をご希望の方は、7月1日(水)までに受付にご連絡下さい。

・御回料料は、同封の振込用紙で郵便局にてお支払頂くか、受付までお持ち下さい。(銀行・コンビニでのお支払いは出来ません。)

梅窓院〈秋彼岸〉イベント

みんなで作る 第6回 写真展



毎年秋彼岸に開催してきました写真コンクール。今回から、より多くの方にご参加いただける写真展としてリニューアル致します。写真の腕もさることながら、思い出深い旅行先での一枚、家族の記念撮影、可愛いペットのスナップなど、皆様の身近な写真でお気軽にご参加いただける写真展示広場に致します。

ご参加いただきやすいように、参加の方法もデータを送っていただくもよし、カメラを持参いただけるもよし、担当窓口でご協力致します。そしていただいたデータを梅窓院で大きな紙焼きにして展示致します。展示されたご自分の写真をみなさんで見に来ていただくもよし、と新しい形の写真展にご参加下さい。

開催日

平成27年9月23日(水)

秋彼岸の中日の法要に合わせて展示します。

当日の参加者の投票で、テーマごとに特別賞を差し上げます。

参加資格

梅窓院の檀信徒とそのご家族、ご親戚。
梅窓院職員ならびに関係者

参加方法

9月20日(日)までに写真データを
メールで梅窓院にお送り下さい。
プリント写真の持参・郵送でも構いません。

- タテ、ヨコなど問いませんが、いただいたデータを梅窓院でA4サイズの大きさにプリントして展示致します。
- 家族、動物、旅行、自然の4つテーマから一つ選び、お一人様1点のご参加をお願いします。
- データ送信時には「秋彼岸写真展 応募写真」としてお送り下さい。
- 写真データとともに、お名前、ご住所、電話番号、テーマと作品タイトル、一言コメントを併記して下さい。またペンネームで応募希望の方は氏名をお書き添え下さい。
- なお、持参・郵送いただいた写真はお戻し致しませんので予めご了承下さい。

お知らせください。

家族

赤ちゃん、
記念撮影など



動物

ペットなど



今回の
テーマは
4っ

旅行

景色、建物など



自然

海、山、花など



お問い合わせ・郵送先

撮影はしたけれど、データの扱いが不安、不慣れな方は担当窓口にご相談下さい。担当者がご参加のお手伝いを致します。

電話番号 03(3404)8588(広報部直通)
メールアドレス bunkamura@baisouin.or.jp

〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38
梅窓院「秋彼岸写真展」係

参加特典

投票によって各テーマ1名、合計4名の方に特別賞(商品券3000円分)を差し上げるとともに、梅窓院で選んだ作品を本紙『青山』新年号の表紙に掲載させていただきます。なお、特別賞の発表は11月21日(土)の十夜法要の時にを行います。



多くの皆様のご参加をお待ちしています。同封のチラシでご家族、ご親戚にお

本コーナーでこのところ連載している梅真会シリーズですが、今回で10人目の上人にご登場いただくことになりました。昭和48年からの7年間(御礼奉公含む)在籍された住職です。前回と同じ宮城県は古川駅で降りて訪れた来迎寺のご住職で、梅窓院随身時代の寮生活の一日を伺いました。

◆本日はよろしくお願ひ致します。伺ったところ、広報部の川添副部長とは梅窓院の寮で一緒だったとか。

ええ、一緒に充実した学生生活を過ごさせてもらいました。お会いするのも久しぶりで、嬉しい限りです。

◆そうですか。仲が良かったと川添副部長から聞いていますが。

ええ、馬も合ったのでいつも一緒でした。ここでは話せない事も色々したかな。(笑)

◆何やら楽しそうな寮生活だったのですね。その寮での一日の流れをお聞かせいただけますか。

はい、わかりました。

朝の5時50分に板木を当番が鳴らします。6時から朝の勤行です。約30分のお勤めでしたが、三部経という浄土宗が大切にしている三つのお経を訓読みで輪読していました。

◆三部経、『無量寿経』、『観無量寿経』、そして『阿彌陀経』ですね。

そして6時半から朝食当番以外は掃除です。掃除は1時間、みんなで手分けして本堂、客殿、境内、墓苑を清掃します。

7時半から朝食です。朝ご飯が済み、8時過ぎぐらいから学校へ行きますが、たまに、いやしばしばかな、前の晩に飲みすぎた先輩が学校へ行くふりをして、こっそり部屋へもどり、見つからないように押入れて寝ていることもありました。(笑)

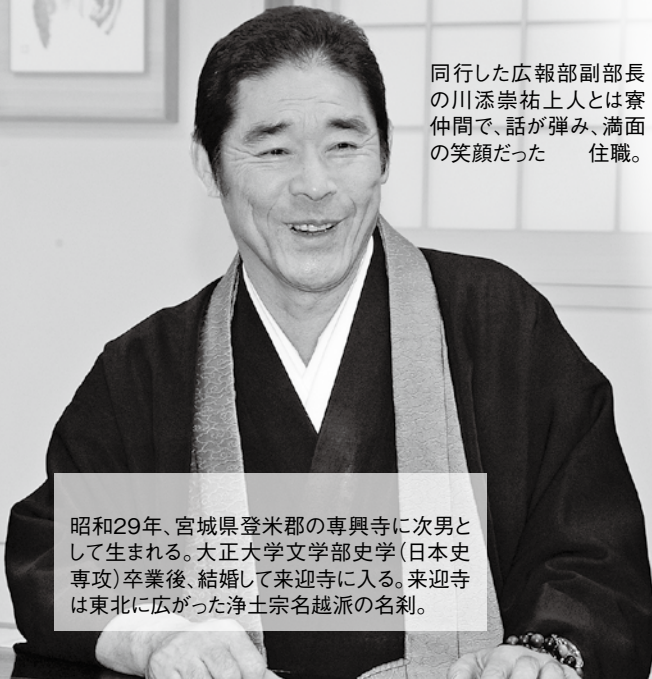
◆(笑)押入れて寝るのは気持ちよさそうですね。

でしょうね。僕はあまり寝てないので、よくわかりませんが。(笑)

そして、学校から帰ってくるのが大体夕方4時頃。5時半から夕方のお勤め、夕勤ですね。そして6時から食事当番が作った晩ご飯を、住職ご夫妻、息子さん(現真成住職)と一緒に食べます。食事が終わればフリータイム、勉強でも何でも、各寮生がそれぞれ好きなことができる時間です。と、こんな一日でしたね。

◆交代の週番が決まっていたとか。

ええ、週番は学校へは行かず、電話番や雑用をします。寝るのも玄関脇の部屋でした。学校へ行かないで一日お寺に居るだけですが、お寺は色々雑用も多く、あっという間に一日が過ぎました。



同行した広報部副部長の川添崇祐上人とは寮仲間で、話が弾み、満面の笑顔だった住職。

昭和29年、宮城県登米郡の専興寺に次男として生まれる。大正大学文学部史学(日本史専攻)卒業後、結婚して来迎寺に入る。来迎寺は東北に広がった浄土宗名越派の名刹。



中島住職との記念写真。雪深いこともあり、先々代が建てた本堂は土間になっている。

◆土日や祝日はどんな一日でしたか。

梅窓院は昔から檀信徒が多いお寺でしたから、土日、そして祝日も法事が6件くらいありました。

午前10時、11時、午後12時、1時、2時、3時と一時間おきに法事が続きます。

◆大変ですね。

一時間おきですから、一回の法要は読経がおおよそ40分。そして残りの20分を次の法要の準備にあてます。

梅窓院は参列される方の人数ぴったりにスリッパを並べたり、数多くあげていただいた塔婆を確認して並べたり、そしてお茶の用意に後片付けと、最初の法要が始まると一気呵成に半日が過ぎるという感じでした。

◆そうですか。今も梅窓院は土日や祝日には同じように朝から夕方まで法事が入っています。

昔より檀信徒さんがだいぶ多くなったと聞いていますから、今の方が大変でしょうね。

◆そうかもしれません。

法事では、午前中が方丈さん(先代の真哉上人)、午後2時からが御前さん(先々代の真孝上人)が導師を務められていました。

両上人ともきちんとされていまして、線香やロウソク、焼香の炭やお香は気を使って準備しました。

特に正面のお線香は目立つので、細心の注意を払ってあげました。

◆それは今のご僧侶方々にも引き継がれていますね。せっかく法要の話をお聞きしたので、棚経の話をお聞かせ下さい。

梅真会で何うこともあるので、聞いていますが、今は新盆でご希望の方のお宅へ棚経に行かれていますようですが、昔は新盆旧盆関係なくご希望のお宅を回っていました。

私は杉並区、荒川区、台東区を担当しました。一度担当が決まると、在学中の4年間は同じお宅をお参りました。ご自宅にあがらせていただきますので、見知った顔がよいということですね。

◆担当地区は卒業した先輩から引き継がれるということですね。

ええ、そうです。杉並区が担当でしたから、以前この梅窓院を囲む人々にも出られていた さんのお蕎麦屋さんにも伺いました。

さんにお昼頃にうちにお参りにおいでといわれ、昼頃に何うと、お昼ご飯をご馳走していただきました。美味しかった嬉しかったのを覚えています。

◆確かやぶ平さんという屋号のお店ですね。

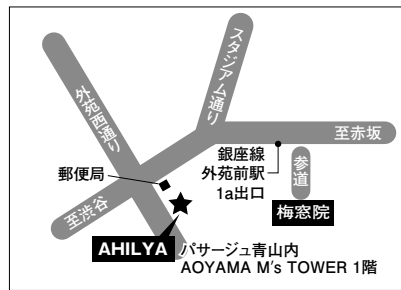
今思い返しても、川添先輩も居たし恵まれた寮生活でしたね。(笑)

◆そうですか、どうぞこの後、川添上人との昔話を咲かせて下さい。本日はありがとうございました。

今回は梅窓院から徒歩5分程にあるインド料理店アヒリヤを訪れました。インド料理店というと経営者はインド人かと思つていたところ、その七割はネパール人やバングラデッシュ人という。そんな中このアヒリヤはインド人が経営し、メニューも全てインドのオリジナルメニューという貴重なお店で、北インドと南インドのカレーが頂けるのが最大の魅力。

が北インドのカレー、豆と米を発酵させて作るクレープの様なドーサとココナツミルクでさらりと仕上げたのが南インドのカレーだ。南インド料理は初めて頂いたが、ドーサの生地は外側がパリッ、中はふんわりで甘味があつて美味しい上に、自家製のチーズやラッシーがスパイスの効いたカレーにとってもよく合う。

ランチは5種類あり、890円からとリーズナブル。梅窓院からも近いのでお募参りの前後に今回は北インド、今回は南インドと本格的な南北インド料理を堪能してみたいかがでしょうか。



営業時間／ランチ 11:00~15:00
ディナー 17:30~23:00
土日・祝日 11:30~23:00

席数／67席
住所／東京都港区南青山2-27-18青山エムスタワー1F(パサージュ青山)
TEL／03-3470-0351

▶南インド料理のマサラドーサが頂けるEランチ 890円



◀北インド料理の魅力が詰まったCランチ 1290円



お酒落で煌びやかな店内

青山俳壇

選者「ウェブ俳句通信」編集長

大崎紀夫

◎特選

○法然忌磯を清めてたたむ波

◎入選

- つつがなき老の生活や山笑ふ
- ふとん干す陽のぬくもりに包まれて
- 銀ぶらの気どるステッキ春うらら
- 春の日の鳥の姿のかるやかに
- 春の虹初島跨ぎ立ち上がる
- 花吹雪歩みゆるめて下る坂
- 手洗ひに一輪挿しのほけの花
- 真新しき苗札立てる園児かな
- 草餅の黄粉こぼるる膝の上

◎選者詠

○夜明けには川舟の出る蘆の角

大崎 紀夫

◀ワンポイントアドバイス

一句の中に季語が二つ入っている句を「季重なり」と言います。そういう句を「ダメだ」という俳人といいたくないか」という俳人がいますが、今回特選をとった遣迎子さんの「法然忌」の句のような忌日の句については、多くの俳人が季重なりを認めています。忌日だけでは季節が出ないということもあり、季節のよく分かる季語をもうひとつ入れた方がよく分かるということもありません。虚子忌は4月8日ですが、わたしは「眠たげに亀鳴く虚子の忌なりけり」と「亀鳴く」という季語をひとつ入れて詠んだことがあります。

投句募集

今回は「夏の季語」でご自由にお詠み下さい。7月2日を締切り、9月発送の「秋彼岸号」にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さいませ。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。
ウェブ編集室
電話03-5368-1870

第五十九回

食は命

食養研究家
武鈴子

夏バテ防止に「ずんだ」

夏といえば、左利きにはなんといってもビールでしょう。茹でたての枝豆をアテによく冷えたビールで喉を潤す、夏の風物詩の一つです。日本では平安のころからの「さやまめ」を茹でて食べていたようです。

大豆のことを、フランスでは真珠の豆といい、ドイツでは畑の肉と呼ぶほど貴重な食べ物。日本で枝豆として利用されるようになったのは17世紀末。現在では枝豆用品種は200種にも及ぶといえます。

枝豆にはたんぱく質のほか新陳代謝をよくし、自律神経を調整するビタミンB1が豊富です。B1は糖質からエネルギーを作るときに欠かせないビタミンで、不足するとエネルギーが作れず、元気が出なくなります。

夏は暑さのために食欲がなくなり、そうめんや冷や麦などのさっぱりした食事に偏りがちですが、これらをエネルギーに変えるためにB1の消費量がぐんと増え、それが原因で夏バテを引き起こしてしまいます。

枝豆には、大豆には含まれないビタミンCも多く含まれているので、美肌にも効果的。さらに、アルコールの害から肝臓、腎臓を守る成分(メチオニン)も多いので、これらが豊富な枝豆はビールのおつまみには最適というわけです。

ずんだ和え

茹でて薄皮をむいた枝豆1カップを搗りつぶし、枝豆の半分量の砂糖に、みりん大さじ2、塩小さじ1/2を加えて「ずんだ」餡を作り、蒸し茄子を和えても美味しい。

夏バテ防止に、家族みんなでいただきます。

お檀家さんに伺いました

平成27年第64回念仏と法話の会にて

「梅窓院で学ぶ」

実はこれから大学に通おうと思っていたのですが、お寺の方が身近に感じられるため、こちらで学ぼうと思い、念法会に参加しました。私の本家は明治以前から梅窓院に何代もお世話になっているので、これからはお墓や仏教について学びたいと思っています。

法話はとても分かりやすく聞くことができました。法要ではお経を唱えるのが難しかったので、いつかはすらすらと唱えられるようになりたいです。お斎のお蕎麦はうどん党の私も満足なお味でした。

平成27年春彼岸法要にて

「家族揃ってお墓参り」

毎年春彼岸と秋彼岸は家族でお墓参りに来ています。今年は墓参りのみの参加でしたが、物産展では日本酒大好き人間なので郡上の日本酒を購入しました。彼岸の寄席が楽しみの一つで、特に三遊亭歌る多師匠が好きです。今回は時間がなく拝聴できなかったのが返す返すも残念です。

小さい頃から梅窓院に足を運んでいたの、来るたびに昔の本堂を思い出し懐かしくなります。今は現代的な梅窓院ですが、昔の格調の高い印象のある本堂も素敵でした。

※ さんはこの『青山』俳壇にいつも投句いただいています。
今回はお写真でも登場です。

秋彼岸写真展開催

春彼岸号よりお伝えして参りました秋彼岸写真展の応募要項を同封致しました。是非皆様ご参加下さい。

また、写真展の内容に関しては本紙の特集をご覧ください。

発行／梅窓院
発行日／平成27年6月1日
発行人／中島 真成
編集／青山文化村
住所／〒107-0062
東京都港区南青山2-26-38
電話／03-3404-8447
FAX／03-3404-8436
ホームページ／<http://www.baisouin.or.jp/>
E-Mail／jodo@baisouin.or.jp
題字／中村康隆元浄土門主
総本山知恩院第八十六世門跡

行事予定

開山忌法要・能楽奉納

6月13日(土)
法要 午後3時～ 本堂
能楽 午後4時～ 祖師堂

第65回 念仏と法話の会

6月18日(木)
11時20分～(受付11時より開始)

盂蘭盆会法要

7月13日(月)
午前10時半より 祖師堂
※詳細は3面をご覧ください。



梅窓院のお墓とペット供養の窓口

日本エキスパートシステム 墓苑事業部からのお知らせ

施餓鬼が無事終わったと思ったらもうお盆です。私事で恐縮ですが私の実家のお墓は千葉の田舎にあり、なかなかお参りに行くことができません。梅窓院で仕事をしているので、お彼岸やお盆はお参りできないのは止むなしですが、夏は海水浴などで道が混んでいるのを理由に、亡父には申し訳ないと思いつつお参りに行っていません。

梅窓院に新しくお墓をお求めになる方で、地方から改葬(お墓の引っ越し)される方が半数を超えます。一日がかりのお墓参りより、気軽にお参りできる方がやはり良いのでしょうか。お盆やお彼岸でなくても梅窓院のお墓にお花が沢山お供えしてあるのは月参り等でお参りに見える方が増えているからでしょうか?

皆様のお知り合いの方で近くにお墓をお探しの方がいらっしゃいましたら、ぜひ梅窓院をご紹介ください。
(墓苑部・森)

平成27年度 前期 仏教講座のご案内

全講座▶午後6時～8時 受講料▶無料 場所▶祖師堂

講題／続・羅什伝を読む

講師／阿川 正貫 先生(浄土寺住職、大正大学講師)

- 第2回…8月 6日(木) 涼州の日々
- 第3回…9月11日(金) そして長安へ

講題／大乘仏教を読む —『維摩経』シリーズ(1)

講師／勝崎 裕彦 先生(大正大学学長、香蓮寺住職)

- 第1回…6月25日(木) 『維摩経』の世界
- 第2回…7月30日(木) 仏国品第一の教え
- 第3回…8月20日(木) 方便品第二の教え

講題／法然上人のみ教え —『選択集』を読む—

講師／林田 康順 先生(大正大学教授、大本山増上寺布教師、慶岸寺副住職)

- 第3回…6月22日(月) 『選択集』第10章 お念仏の讃歎 —化仏讃歎—

講題／仏教民俗学入門(3)

講師／本林 靖久 先生(大谷大学・佛教大学講師、真宗大谷派僧侶)

- 第2回…7月10日(金) 仏教的俗信 —仏・天部と高僧—
- 第3回…9月 4日(金) 聖と寺院 —勧進と遊行—